

No. 1264

「成田」5月20日開港

“我々はやった” “我々はやった” 福田政府の「年度内開港」をついに打ちくたした。成田・新国際空港の開港阻止の集会で高々と勝利宣言する反対同盟。政府公約の年度内開港、4月30日を目前にひかえた3月26日、過激派の同時多発の奇襲攻撃で空港の中樞神経とも言うべき管制室が占拠され、ハンマーなどで機器類が破壊された。管制機器類の被害は大きく、開港は大幅な延期を余儀なくされた。

開港予定日の直前、空港機能を破壊され、延期決定が行なわれるといった事態は外国にも例のないことである。成田空港建設が閣議決定した昭和41年7月以来12年、それは「国家」と「農地を守る農民」の衝突の歴史であった。

昭和42年、空港外郭測量のクイ打ち、「敷地にクイを打たれても心にクイは打たせない」を合言葉に反対運動は激化、43年には反対同盟は三派全学連を受け入れ、現地の総決起集会はついに流血をみた。

44年、決死隊を結成、45年、婦人行動隊、少年行動隊も闘いの前面に立った。46年、反対派用地への強制代執行、あちこちで激しい衝突が展開された。この間、機動隊員や反対同盟側、双方に犠牲者も出た。

52年、11月、福田内閣は53年3月30日開港を決定。反対同盟も新たに妨害鉄塔を造る。今も空港周辺には反対同盟の団結小屋が33ヶ所もある。鉄骨で固められた第二要さい内部。自家発電機もつけられており、50人の反対派がたてこもっていた。

戸村一作委員長は「ベトナムのように長期戦で廃港に追い込む」と語る。福田内閣は多くの懸案を残しながら成田開港に踏み切った。安全な運航は確保できるのか、5月20日、もう待ったなし。こんどこそ、一番機は予定通り飛ぶことができるだろうか。